



今年のまつり会場はマリンウェーブ周辺に変わり、華やかな衣装に身を包んだ踊り子たちが「サンバラしま」のリズムに合わせて、エネルギッシュに舞い踊りました。屋台にも大行列ができ、暑さを吹き飛ばす夏の祭典が3日間にわたって繰り広げられました。



子どもたちには訓練生からプレゼントが♪



船上では各所で思い出の記念撮影が



一般公開にあふれる人・人・人！



「登しょう礼」では、訓練生が40メートルを超えるマストに登り、「ごきげんよ〜！」とあいさつすると、来場者からは大きな歓声が上がりました



「海の貴婦人」ともたとえられる雄姿が、夜の詫間港を美しく彩りました

## 帆船 「日本丸」が**初**入港

第41回を迎えた「たくま港まつり」のメインイベントとして、帆船「日本丸」（全長約110メートル、マスト高約50メートル）が県内有数の国際貿易港として知られる詫間港に初入港。

昭和45年詫間港が開港し、発展を願って始まったたくま港まつりが、みとよの夏まつりのトップを切っ、7月14～16日に詫間港2号岸壁とマリンウェーブ周辺で開催されました。

船体の優美さから「太平洋の白鳥」とも呼ばれる日本丸が初めて詫間港の岸壁に接岸し、船内の一般公開やメインイベントの一つである来場者に対する謝礼を意味する儀式「登しょう礼」が行われ、市内外から大勢の人が訪れました。

15日には港まつり会場で18連263人がメインステージをはじめ3カ所で、音楽に合わせてキレのあるダンスを披露し、観客を魅了しました。

最後は、港まつり恒例の海上花火。700発が夜空を舞い、ライトアップされた日本丸との共演でフィナーレを飾りました。



訓練生の帽子を借りて、船員気分♪



船内にあるさまざまな設備に子どもたちも興味津々



やしの実を使ってのデッキ磨きを体験

日本丸  
NIPPON MARU